

いわざ民報

社報民きわい (第一八三號) 地方一町田市平

ついに藤の季節になり... 是非見晴らしのよい春木亭へ

再統制の野菜と魚は?

縣の方針未定に全く宙に迷ふ

お蔭所と切つても切れない關係にある野菜とお魚は一旦自由販賣になつて今度更に再統制になつた、特に野菜は廉賣制も廢止になり再統制になつたもの縣の方針が決定しないので、統制もどこへ行くのか? 宙に迷つた形である、こんな

野菜問題は買入價格 市民も農家も共に痛手

政府の補助でお百姓から高く買と三十圓以上で買入れ最高七圓入れて市民へ安く賣つてゐた理まで市民に配給してゐたのだ。理想的な廉賣制にストップが掛かれば市民も痛手でありつた。今度の再統制で一番困つたのは、お百姓の買入價格が決定しないことだ。どんな風に統制をして行くか? 兎角足りないものはどんなに頭をひねつても足りないに決つてゐる、平市役所配給課ではいつ迄も宙ぶらりんの態度で居る。お百姓の買入價格を決定するまでお百姓の買入最高價格で野菜を仕入れそれに運賃や業者の手數料を一割加算して當統制の種の中をばくお魚は最近大取もの叩きが良くなつて來分従來通り隣組を通じて配給し割合豊富に出廻りを見せてゐた、こんなにお魚が多く出廻つやうと計画をたてた、その買入最高價格とは(買當り價格) 【五圓】菜類 【七圓】大根 【八圓】カブ、甘藷、白菜、根に達してゐる、うちお魚の大部分はヒラメ、鰻類の底魚漁業に依る獲物が多く最近になつて季節の大取ものが多く入荷し始めた、陽気が暖くなつて來たため底魚の漁獲は市民も一般に飽きたもの如く買入もやうやく、これを従来の廉賣制に見るややく低下し始めこれに引換えて

魚鮮と、氾濫の有様 大きいリンク制の効果

が問題で、市配給課では農業會へ出荷促進をお願いしてゐる状態である、右について山岸配給課長は語る。生産者も消費者も廉賣制が廢止になつたのだからお互に歩み寄つてこの暫定處置ではあるが配給制度を守つて、欲しい、問題は出荷數量であるが出廻れば迅速に隣組を通じて従來通りの配給を続けませう。リンク制の効果、大きいリンク制の効果、一方ハマの模様を見ると底魚、漁船は今月八日のハマの祭禮各團體は松ヶ岡公園に集合、大會半途に支部所屬炭礦労働組を引率して突如デモ行進に移つた。準備不足が春祭後は船体の内のデモ行進に移る計測で各團體は協定無視と難したが間に合はす。修理のため半數が出漁を切上休間に協定が成立してゐるにも拘らず、社会黨常務支部長大井

自由販賣は時期尚早

伊藤市場主事談、右について伊藤丸公市場主事は語る。新園に依る五百圓生活では仲々お魚も毎日は大ヘンド、最勤勞青年文化聯盟が結成され近になつて配給魚をもて余す傾向もあり、こんなにお魚が三時運轉準備を開き、二十六日午後三時を期して發會式を擧に決つた、かくて街燈廢止も中

明るい街の實現へ

園部氏の義舉に配電會社協力、本市では終戦後街燈の復活により明るさを取り戻したのも束の間、片端から電球を盗み去られる始末に昨今各区内會とも就つて廢燈を申込み、このまゝでは再び暗黒の街と化してしまふが、治安上からも面白くないとあつて、東北配電平盤業所では市を通じて廢燈申込方を要請して來たが、これを聞いた新川町國際電球の園部義雄氏は、無料寄附するから廢燈中止を市に申込んだ、この好意に感ずる市は東北配電でも、この際街燈取付け位置を上げて高懸線と入れ、引込線の中間にし取付け、かくて街燈廢止も中

増産に団体協約成立 示唆に富む入山の握手

労働者団体となり増産と労働者の向上を期す目的で、常務炭礦入山礦では大越所長を中心として、同礦労働組合代表武藤武雄、木田辰雄、山田儀雄の三氏が、喧しい労働條件、作業、福利厚生、物資の配給、増産の諸件について懇談の末、この團體協約が成立し、堅い握手の下に増産一途に進捗することになった、各所に勞資の對立化してゐる折柄この協約は労働者資本化側に大きな示唆を與へてゐる。

大井川氏に公開状

濱通り地区勞組協議會から、大井川幸隆氏は、協定を無視して大會半途に支部所屬炭礦労働組を引率して突如デモ行進に移つた。準備不足が春祭後は船体の内のデモ行進に移る計測で各團體は協定無視と難したが間に合はす。修理のため半數が出漁を切上休間に協定が成立してゐるにも拘らず、社会黨常務支部長大井

福島炭礦に新生青年會

福島炭礦(小川郷)従業員青年有志は中澤勇、藪谷俊行兩君等を中心として四月三日午後三時から同礦に、新生青年會を結成した。同會は炭礦青年の文化の向上と政治思想の研究等を旨とするもので、純真な青年たちの集りだけに今後の活潑な活動が期待されてゐる。

小名濱町長 志賀斐平氏

四月三日、志賀斐平氏、町長に就任した。志賀氏は、町政の刷新と、町民の福利増進を期すべく、鋭意努力を怠らぬと、決意を述べた。志賀氏は、町政の刷新と、町民の福利増進を期すべく、鋭意努力を怠らぬと、決意を述べた。

言寸きわい

常務炭礦は炭礦直後、舊重役が總退陣し、礦業所の技術家出身である大計經次氏を社長に、現礦業所長大越新氏以下、重役陣は殆んど擧げて山元現場で、常務炭礦に率先して、ヤマの民主化を圖つてゐるだけに、従業員に対する理解も早く、今日の團體協約を見たものであらう。

各地に生サン管理問題が起り、或いは配給面参加、勞賃値上、労働時間問題等々要求され、労働争議が漸増傾向にあり、障礙となつてゐる際、常務炭礦今回の措置は喜ぶべき点が多い。

